

# うどのにしいせき 鵜殿西遺跡（第7次調査）

## 屋敷地を区画する大規模な溝の存在が判明！

これまでの鵜殿西遺跡の発掘調査では、鎌倉～室町時代のものと考えられる、掘立柱建物が建ち並ぶ屋敷地と、それを区画する複数の溝がみつかっていました。今回の発掘調査でも、掘削を進めていくと、いくつかの区画溝が検出され、その様子が明らかになってきました。

特に注目されるのは、南北に延びる非常に大規模な溝です。この溝は、平成30年度に、今回の調査区に隣接する第2次調査の調査区で発見されていましたが、調査区内に入っていたのは東側半分のみであったため、規模などは明らかになっていませんでした。ところが、今回、西側半分が検出され、幅が5m近くもあることが判明しました。深さも1.5mほどあります。

これだけ大規模な溝が、屋敷地の区画だけの目的で掘られたとは考えにくく、屋敷地の防御、あるいは水を溜める水利施設としての用途を兼ねていたのかもしれませんが。この溝の東側には、かなり規模の大きな掘立柱建物が存在するため、この建物と関係する施設とも考えられます。今後、溝の埋土の堆積状況の検討や、出土遺物の整理などを進め、溝が掘られた時期や埋没した時期、機能などについて解明していく予定です。



大規模な溝の検出状況（北から）

### 【 問い合わせ先 】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究2課（担当：渡辺・鐸木）

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503

電話：0596-52-7029 FAX：0596-52-7035